

令和6年度事務事業評価表

事務事業名	災害ボランティア活動支援			担当課	ボランティア・地域貢献活動センター	事業種別	自主
				担当係	推進係		
開始年度	平成20年度	計画体系	1 地域でつながり、支えあうしくみをつくります ⇒ (2)ボランティア・地域貢献活動の推進				
根拠法令等	災害時におけるボランティア活動等に関する協定・葛飾区地域福祉活動計画						
事業区分	事業	社会福祉	拠点	ボランティア・地域貢献活動支援事業	サービス	災害ボランティア活動支援事業	
事務事業目的	災害時に多くのボランティアが効果的かつスムーズに活動できるよう、災害ボランティア活動支援体制の充実を図り、区民が安心して暮らせる環境づくりを進める。						
実施内容	【概要】 1 災害ボランティア講座 (1) 入門編 (2) 応用編 2 登録制度 (1) 災害ボランティア登録 (2) 登録者へのレベルアップ研修 3 普及啓発 (1) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練 (2) 地域の防災訓練への参加 (3) 災害ボランティア基本マニュアル・災害ボランティアセンター運営マニュアルの活用 4 連携体制づくり (1) 災害ボランティアセンターブロック会議 (2) 災害ボランティアセンターブロック連携訓練 (3) 区内ボランティアグループ(要援護者支援団体)連絡会 (4) 災害支援団体(NPO・NGO)などとの連携協議 5 広域避難者への支援 (1) 被災地や避難者支援に関する情報提供						

指標		指標の根拠	単位	区分	R3	R4	R5
成果	講座受講者数	—	人	目標	120	120	120
				実績	33	45	67
成果	登録者数(新規)	—	人	目標	30	30	30
				実績	17	9	0
活動	訓練実施回数	—	回	目標	1	1	1
				実績	1	1	1
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

備考	
----	--

コスト内訳(千円)			R3	R4	R5
収入	特定 財源				
	一般財源 (a)		2,139,237	1,733,379	1,971,499
支出	事業費 (b)		275,157	164,179	237,019
	職員人件費 (c)		1,864,080	1,569,200	1,734,480
		業務量(人)	0.24	0.20	0.22
	間接費 (d)		0	0	0
	調整額 (e)		0	0	0
		退職給与引当	0	0	0
			0	0	0
			0	0	0
		(控)コスト対象外	0	0	0
トータルコスト (f=b+c+d+e)			2,139,237	1,733,379	1,971,499

単位当たりコスト(円)		R3	R4	R5
単位の定義		災害ボランティア登録者数(人/新規)		
実績数値	(g)	17	9	0
単位あたり社協単コスト	(a/g)	125,837	192,598	—
単位あたりコスト	(f/g)	125,837	192,598	—

実施状況に対する評価	災害ボランティア講座として、町会・民生委員など地域を巻き込む参加型として「防災まち歩き」を実施しており、今年度については、地元の中学生や大学生を巻き込み実施することができた。 令和2年度より、災害時の支援のモレやムラをなくし、柔軟で効率的に関係機関との連携を図り、被災者支援ができるよう行政・社協、区内NPOなどと意見交換・情報共有を行う災害支援者三者交流会を開催している。参加団体も増えて、団体間の連携活動も活発に行われている。交流会としても、災害ボランティア講座への協力など、情報交換だけでなく活動を行うことができた。 令和5年度はボランティアの登録制度を見直したため、前年度245人から36人となった。また、新規の登録者数は0であった。 なお、能登半島地震に伴う葛飾区へ避難された広域避難者(11世帯)には、食料・衣類支援や相談支援、サロン交流会を実施し、被災者支援に関する情報提供と交流を行った。
今後の方向性【改善】	地域の防災訓練への参加や講座などを通して、災害ボランティア活動・災害ボランティアセンターのPRを積極的に行っていく。 葛飾が被災した際に災害ボランティアセンターの運営を円滑に行えるよう、ブロック間の社協や災害支援団体(NPO・NGO)、要援護者の支援を行っている団体などとの連携体制づくりを進めていく。 また、被災地への職員派遣を積極的に行い、現地での被災者支援を通して得られる情報や手法などを葛飾が被災した時の被災者支援活動などに活用していく。